

- これまで米麦中心の農業が行われてきたが、米の消費減少等により今後の農業の在り方を模索していたところ、地元で原料となる野菜の調達及び安定供給を求めている食品加工業者とのニーズが合致し、農業法人等の生産者との連携により、野菜生産へ転換することとなった。
- 大規模な野菜収穫を実現するため、国庫補助事業により、収穫機をはじめ、乗用管理機、自動移植機等の農業機械やパイプハウス資材の導入等を実施。
- 近隣に移転してきた食品加工事業者が新たな産地からの原料調達を模索していたことから、明和町、生産者、農協、種苗会社等が連携して生産農家の募集・農地の確保・栽培技術指導等を実施し、水田中心の農業から加工・業務用野菜への転換が図られ、中間事業者である食品加工業者への出荷が実現した。
- 増産を目指すにあたり、基盤整備や湿害になりにくい土づくりに取り組んでいくとともに、若い世代を中心とした新たな生産者の参画を目指す。

新しい野菜産地づくり協議会

・ 構成員

【生産者】

地元農家、農事組合法人等

【実需者】

A社、全農、農協

【その他】

群馬生科研、タキイ種苗、群馬県、明和町等

・ 栽培作物

キャベツ、レタス

・ 栽培面積

30ha（加工・業務用野菜）

・ 年間生産量（令和4年度）

1,926t（全量加工・業務用）

・ 出荷時期

12～3月

畝立同時施肥機

【協議会の様子】

全自動移植機

【パイプハウスの建設（レタス）】

【転換後の農地】

【目揃い会】

【収穫】

【先進地視察】

生産計画

出荷計画

実需者（中間事業者）

肥料メーカー等と連携した栽培指導

集荷・1次加工

全農・農協

【コンテナ出荷】

【キャベツ】

【工場】

【カット商品】

カット業者 A社

栽培面積の推移

(ha)

40

20

0

H29

H30

R1

R2

R3

R4

R5見込

全農出荷分

A社

新しい野菜（園芸）産地づくり支援事業（H29～R元）により収穫・移植機を整備後、産地生産基盤パワーアップ事業（R4）によりハウスを整備。